

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

三宅町長 森田 浩司

|                   |                       |  |
|-------------------|-----------------------|--|
| 市町村名<br>(市町村コード)  | 三宅町<br>(29362)        |  |
| 地域名<br>(地域内農業集落名) | 屏風<br>(全域)            |  |
| 協議の結果を取りまとめた年月日   | 令和 6 年11月28日<br>(第2回) |  |

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。  
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、ごく一部の放棄地を除くすべての農地で水稻栽培を中心とした耕作が行われており、美しい田園風景が保たれている。  
しかしながら、耕作者(所有者)の平均年齢が72.2歳、耕作者のうち60代以上が占める割合が84.9%と非常に高齢化がすすんでおり、今後耕作者の離農に伴う後継者不足による耕作放棄地化が懸念されている。そのため、地域内外問わず新たな担い手または耕作者の確保が必要であるが、地域農業を守り続けていくためには、水路や農道等の整備や農業用水の管理など、現在地域内の農業者同士で行っている農地維持活動および地域内におけるルールを理解し、一定の協力を得られる担い手または耕作者であることが求められる。

【地域の基礎的データ】  
耕作者(所有者):53人(うち50歳代以下8人)  
主な作物:水稻

(2) 地域における農業の将来の在り方

農地の9割を占める水田について、一団で実施するドローンを活用した農薬及び肥料の散布など、スマート農業の技術を活用することで農作業の省力化および効率化を図り、収益の出やすい構造づくりを目指す。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

|                                  |         |
|----------------------------------|---------|
| 区域内の農用地等面積                       | 16.8 ha |
| うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積      | 16.8 ha |
| (うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】 | ha      |

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を対象とし、東屏風団地を境に西側と東側の2つのエリアに分けて設定する。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

|                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| (1)農用地の集積、集約化の方針                                                                            |
| 地域の事情やルールに理解のある地域内の意欲ある耕作者へ集積、集約化を進めていく。                                                    |
| (2)農地中間管理機構の活用方針                                                                            |
| 個人間で行われている農地の貸借について、相続等による代替わり後に起こりうるトラブルを避けるため、農地所有者(貸付者)の意向を把握した上で、農地中間管理機構を通じた貸借契約を推進する。 |
| (3)基盤整備事業への取組方針                                                                             |
| 担い手または耕作者からの要望があれば、農地の区画化等の整備について検討する。                                                      |
| (4)多様な経営体の確保・育成の取組方針                                                                        |
| 県や農地中間管理機構、JA等と連携し、地域内のルールに理解のある担い手または耕作者を募集し、相談から定着まで切れ目のない取組を展開する。                        |
| (5)農業協同組合等の農業支援サービス事業体等への農作業委託の活用方針                                                         |
| 担い手または耕作者の確保が困難な場合は、必要に応じてJA等の農作業委託を活用し、耕作放棄地の発生防止に努める。                                     |

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

|                                                            |                                      |                                             |                                |                               |
|------------------------------------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------------------|-------------------------------|
| <input type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策※                        | <input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料 | <input checked="" type="checkbox"/> ③スマート農業 | <input type="checkbox"/> ④輸出   | <input type="checkbox"/> ⑤果樹等 |
| <input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等                         | <input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等     | <input type="checkbox"/> ⑧農業用施設             | <input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携 | <input type="checkbox"/> ⑩その他 |
| 【選択した上記の取組方針】                                              |                                      |                                             |                                |                               |
| ③一団で実施するドローンを活用した農薬及び肥料の散布など、スマート農業技術を活用した農作業の省力化及び効率化を図る。 |                                      |                                             |                                |                               |